

葉の花・ひまわり
礎かぜて衛素こじ

衣・食・住・エネルギーの地産地消をめざす NPO法人



緑のハート

バイオライフ

御案内

~ バイオライフという名称について

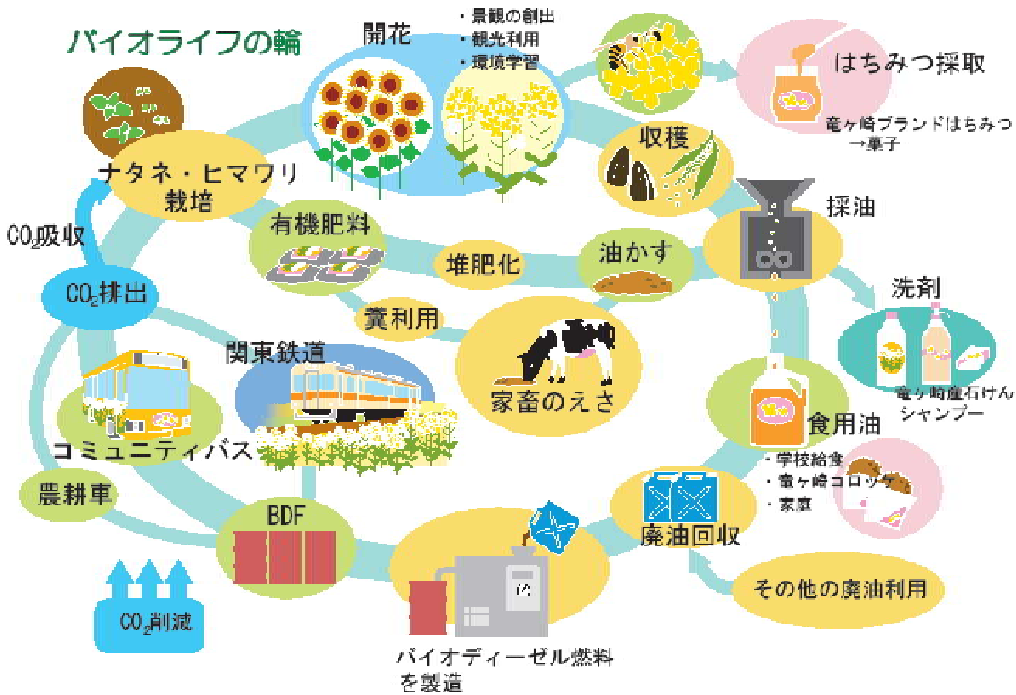
バイオテクノロジーという意味で使ったものではありません。

もっと広い意味でのバイオ、生命とか生物に関するというものですが、特に、自然の植物由来のものをもっとうまく活用し、自然と調和した生活を目指していこうということから命名しました。

発行:2010年5月

設立経緯

菜の花などの油糧作物を栽培し、植物油を生産することを中心に、その油粕を肥料・飼料に、花の開花時には養蜂も、油は食するだけでなくそれから洗剤も製造する。そして食した後の廃食油からはバイオディーゼル燃料を精製する。このような地域における循環型社会構築の1つのモデルを作りたいと、7人の有志が立案した「バイオライフの輪」実現のために、産官学+市民の連携を図った地域活動を起していくには、NPOという組織が最適と判断してNPO法人バイオライフを設立。



目指すもの

- ・産業、教育、文化、福祉、健康などあらゆる社会生活の領域において環境保全活動に取り組む。
- ・豊かで自然と人が調和した、暮らし良いまちの実現。
- ・環境と経済の調和、環境保全と地域振興の両立、資源循環型社会の構築に寄与。

組織概要

設立(NPO認証) 2008年4月
 事務所所在地 茨城県龍ヶ崎市佐貫町629-2
 TEL・FAX 0297-65-8864 活動紹介URL <http://npo-biolife.jp/>

活動&事業内容(定款より)

- 遊休&荒廃した農地での油糧作物栽培・・・農地保全, 農業活性化
- 農業&自然体験・植物観察・・・体験型環境教育
- 植物油の利用・・・調査研究と普及活動
- 地産地消の推進・・・調査研究・実践・普及
- 4R*の推進や食育・・・環境・健康に配慮した暮らし方提案と学習会等での啓発
- *リフューズ(抑制),リデュース(削減),リユース(再利用),リサイクル(再資源化)
- 商業活性化支援・・・地域ブランドの研究開発・提案・普及
- 廃棄物資源化・・・技術と社会システム調査・研究開発・実践及び普及
- 地域資源(人・土地・施設等)の利活用・・・調査研究・提案・管理運営
- 地域活性化に貢献するイベント・・・関係団体との連携・情報交換・ネット構築

活動実績(概要)

- ・活動拠点・・・茨城県南部(取手市・龍ヶ崎市・稲敷市など)
 取手市と業務委託契約(遊休農地解消事業:2008.10~)
- ・栽培面積・・・約10ha(2009年実績)
- ・栽培品種・・・なたねの優良品種「キラリボシ」(東北農研開発)
 キラリボシの育苗販売権取得(農研機構・東北農研と契約:2008.10~)
- ・搾油・・・低温圧搾(コールドプレス)方式の搾油実施:2009.10~
 トランス脂肪酸が出ない搾油方式
 (財)日本食品油脂検査協会にて分析
 従来の菜種油の常識を超えたなたね油
 「キラリボシ油」を生産
 (ひまわり油も生産)



【コールドプレス製法の油】



* 今後は、油糧作物に限らず、自給率の低い小麦・大麦、大豆、飼料米などの栽培と不耕作地やバイオマスなどを活用した再生可能エネルギーの地元生産に向けた取り組みなども行っていく予定。 次ページの図参照

役員構成

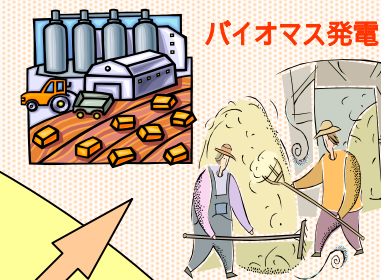
理事長	松田敬治	理事	新沼和彦
副理事長	安友純	理事	松田百合子
理事	田中智	理事	長塚哲男
理事	塩川富士夫	理事	成島良夫
		監事	阿部守利



バイオライフ・ロゴマーク

エネルギーの地元製造

不可耕作地での太陽光発電



バイオマス発電

作物の栽培体系

(1) 飼料米・菜種…田んぼ



飼料米6~10月



菜種10~6月
(1~2月間引き菜・菜花)

(2) 亜麻仁・菜種…畑



亜麻仁7~10月



菜種10~6月
(1~2月間引き菜・菜花)

(3) ひまわり・小麦(大麦)…畑



ひまわり6~10月



小麦(大麦)11~6(5)月

(4) 大豆・小麦(大麦)…畑



大豆6~11月
(9月一部枝豆)



小麦(大麦)11~6(5)月

地元製造・加工製品



小麦粉・米粉



家畜の飼料



間引き菜・菜花



生搾り油



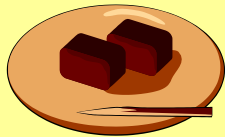
油粕からの
肥料・飼料



パン・米粉パン



小麦粉・米粉麺



お菓子



味噌



醤油



納豆



豆腐



おから食品



おからの
肥料・飼料



麦茶

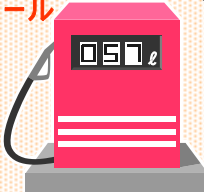


ビール、枝豆



食用麦

藁やオカラ・芝・雑草など
からバイオエタノール



廃食用油からBDF



(バイオライフが目指す今後の取り組み方針)

油糧作物の自家栽培や自油作りをしませんか！

【概略】

- ①出資金等：今年度はなし（但し、NPO法人バイオライフ正会員を対象とする。）
- ②農地面積：目標1組(何人でも可)約10a(実際の面積は使う土地全体の大きさや形状等による。)
- ③栽培等：基本的に無農薬・有機栽培，土地半分を半年毎交互に油糧作物栽培する。
- ④作業内容：耕起，肥料・種蒔き，草刈，収穫，種乾燥・選別
- ⑤収益等：収穫種をkg当たりの相場でNPO法人バイオライフが購入，油など一部配布，作物栽培品の支援者間売買(ネットワーク構築により推進)
* 搾油をバイオライフ指導のもと、ご自分で行い(搾油体験)、その油を持ち帰ることも出来ます。
- ⑥目標収量：5a当たり種100kg×2，油30kg×2(菜の花とひまわりなど年2回収穫)
- ⑦指導等：NPO法人バイオライフにて農機貸出し援助や作業指導を行う。

栽培支援者を募集しています。

<栽培の目的>

遊休農地(農家など所有農地)の有効活用
地域の活性化，地産地消(地域内自給自足)推進
有機農業・食育・健康増進・環境学習の推進
環境保全，景観保全
地域の人材・技術・設備等の有効活用
CO2削減(脱化石燃料の推進)
地域循環型社会の1つのモデルとする
農業従事者減少への対応
(現在の農業問題、これからの農業のあり方を見据えて、多くの方が農作業に従事していく手がかりを模索していく。)

キルドプレス搾油機



菜の花・ひまわり
葉がせて衛壽とし

衣・食・住・エネルギーの地産地消をめざす NPO法人



バイオライフ

□ この活動に関する連絡先 安友；090-3916-9005 塩川；080-3426-6874